

令和 5 年 4 月 14 日

教 育 長 様

(※受付番号 )

研究コース
A グループ研究 A
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
681512

代表者	校 園 名 :	大阪市立大宮小学校
	校 園 長 名 :	丹羽 和江
	電 話 :	6953-4001
	事務職員名 :	根津 岳
申請者	校 園 名 :	大阪市立大宮小学校
	職 名 ・ 名 前 :	主務教諭 菱垣 裕子
	電 話 :	6953-4001

## 令和 5 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	新規研究 (1 年目)
2	研究テーマ	自ら考え、行動し、未来を切り開こうとする子どもの育成 ～論理的思考力を軸とした教科横断的指導～			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てして記載してください。</p> <p>日常生活の中にある問題点や、教科書教材・インターネット・新聞等の多種多様な情報の中から、児童自らが疑問に感じたり改善しようとしたりする事象を発見し、疑問点を解決したり新たな価値を生み出したりして、これからの社会に必要な真に生きて働く力を育成する。</p> <p>そのために、中核となる国語科において、以下の力を育成する。</p> <p>○論理的思考を働かせて情報を的確に選択する力</p> <p>○事象や情報を分類、比較して整理する力</p> <p>○事象と事象を関係づけたり推論したりして新たな考えを生み出し、論理的にまとめ発信していく力</p> <p>付けた力を活用して、他教科・領域との関連を、単に内容だけのつながりではなく、論理的思考という観点から、結び付けた横断的な指導法について研究する。</p> <p>児童が主体的に他者と関わり、協業して新しいものを生み出そうとする体験活動のありかたも追究していく。</p>			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究 2 年目以降は 1 年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本校の児童は、概ね素直で真面目である。指示されたことは、きちんとやり遂げようとよく努力している。全国学力・学習状況調査や学力経年調査において、全ての教科でここ数年は、全国平均を上回っている。それは、論理的思考力育成をめざして国語科や算数科で授業改善を進めてきた成果ともいえる。</p> <p>その一方で、自由度の高い特別活動や総合的な学習においては、自分がやりたいことが明確にできず、新しいことに挑戦しようとする意欲に欠けるところが見られる。日常生活においても現状を直視して問題点を発見しようとする力、課題を解決する力、他者と交流し、自分の考えを分かりやすく伝える力に課題がある。これからの予測不能な時代に、いかなる困難なことがあっても自力で解決し、よりよく、たくましく生きようとする総合的な力をつけていく必要がある。</p> <p>そこで、本年度は、以下の3点を中心に授業改善と種々の体験活動を結び付けたカリキュラムの工夫を行い、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していく。</p> <p>(1) 自ら主体的に問題を発見する力の育成</p> <p>①身の回りにある現象・事象・種々の情報 (非連続テキストも含む) から、思考して、疑問点や解決しようとする問題提示のあり方、指導法を工夫する。</p> <p>②多種多様な情報を収集・取得する場の工夫 (一般紙・子ども新聞等の活用)</p> <p>③他教科・領域との関連を一覧にして、課題解決学習へと改善する。</p> <p>(2) 考えを論理的に表現する力の育成</p> <p>①先行研究・実践を収集し、実践を交流して指導法の見直し、工夫を図る。</p> <p>②論理的思考力を各教科、領域等のカリキュラムと関連付けた年間指導計画を作成する。</p> <p>(3) 習得した力を生かす、発信する場・機会の工夫</p> <p>①種々の体験活動や、保護者地域の方々との交流を通して社会とのつながりを意識させる。</p> <p>(2)継続研究 [2 年目] ※継続研究 3 年目の場合は、2 年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>(3)継続研究 [3 年目]</p>			

研究コース  
代表校園

A グループ研究A  
大阪市立大宮小学校

代表校校園コード  
校園長名

681512  
丹羽 和江

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 課題分析 研究内容の検討・研究計画立案、先行研究・実践事例の収集 研修プログラム作成 教材研究会 校内研修会（講師 神戸常磐大学 山下敦子教授） 5月 校内自主研修開催 児童・教員への事前アンケート作成・実施・分析 教材研究会 6月 国語科及び他教科・領域の学習内容に関する情報関連資料等の整備 教材研究会 研究授業（5年） 7月 研修 教材研究会 研究授業（4年） 研究協議会（1学期の研究成果・課題について協議し改善方法検討） 8月 校内研修会開催（講師 神戸常磐大学 山下敦子教授）、各種研修会の参加、内容の伝達研修 9月 研究・検証授業の実施（6年）教材研究会 10月 日々の授業における自己表現活動の検証 研究協議会・中間検証（児童・教員アンケート実施・分析） 教材研究会 研究授業（3年） 11月 教材研究会 研究授業（1年） 研究発表会（参加者アンケート） 12月 学力経年調査における学力向上検証 1月 学力向上についての最終検証（学力経年調査結果、アンケート等） 2月 児童・教員への事後アンケート実施・事前アンケートとの比較 学力向上 読書習慣定着に向けた指導・支援・働きかけの検証と研究まとめ</p> <p>主体的対話的で深い学びのある、質の高い授業をめざし、活用する力を高める。</p>
		<p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。</p> <p>・全国〇〇科研究大会 千葉大会参加 ・ICTを活用した〇〇教育の実践者研修会参加 ・授業研究会の指導助言 講師：〇〇大学 〇〇〇〇教授 年4回実施</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <div><input type="checkbox"/> 変更しない。 <input type="checkbox"/> 変更する。</div> <div>理由</div> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>」および、「<u>教員の資質や指導力の向上</u>」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>○児童の学力向上・国語科学習指導を中核とした各教科・領域における取組の工夫、授業改善を行うことで、児童の論理的思考、情報活用・発信力（表現力）が向上する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>児童のアンケート調査で「国語科の学習で調べたり、考えたことをまとめたり、発表したりするのは楽しい・役に立つ」と答える割合を年度当初より5%増やす。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>○国語科の単元指導内容と他教科・領域とを「論理的思考力」を軸として関連付けた年間指導計画の作成により、系統的で横断的な指導が実施でき、児童の深い学びに効果的である。</p> <p>《検証方法》</p> <p>児童のアンケート調査で「国語科の学習で学んだことが他の教科や総合的な学習の時間に活かされていると思う」と答える割合を年度当初より5%増やす。</p>

6	見込まれる 成果とその 検証方法	<p>【見込まれる成果3】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>授業改善や、カリキュラムマネジメントなどの校内研究の活性化で教員の指導力が向上し、研究討議等の過程で教員の協業体制が強くなる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>教員のアンケートで「授業改善や他教科・領域と結び付けた指導を工夫することで、児童に力が付き、自信が付いた」と答える教員の割合を年度当初より増やす。</p> <hr/> <p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>○保護者・地域と連携した活動や、人・自然・文化との関わりを通した豊かな体験活動が児童の学習意欲を高め、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度が育つ。</p> <p>《検証方法》</p> <p>児童のアンケート調査で「自分には良いところがありますか」「社会は自分たちの力で変えることができますか」と思えますか」の質問に、肯定的に答える児童の割合を年度当初より上げる。</p>						
7	研究成果の 共有方法	<p>◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（令和6年2月22日）までに必ず行ってください。</u></p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="410 985 1402 1052"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 6 年 2 月 15 日</td> <td>場所</td> <td>大宮小学校</td> </tr> </table> <p>◆waku<sup>x2</sup>.com-<u>bee</u>掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="410 1131 962 1198"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 6 年 3 月 1 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>研究紀要作成、近隣小中学校・幼稚園・保育所との合同研修会における発表、「学校だより」「学年だより」等による保護者・地域への発信</p>	日程	令和 6 年 2 月 15 日	場所	大宮小学校	日程	令和 6 年 3 月 1 日
日程	令和 6 年 2 月 15 日	場所	大宮小学校					
日程	令和 6 年 3 月 1 日							
8	代表校園長の コメント	<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>昨年度末に「大人が変わらなければ、子どもはいつまでも変わりません。」「子どもたちに本当に生きて働く力を付けてやるために、今までの研究成果をさらに積み上げて、よりダイナミックな研究がしたい。」との申し出が教員からあった。若手教員がここ数年増え、基礎基本の指導や授業力を上げるための研修や取り組みを行い、教育活動の活性化を図ってきた。その結果、校内授業研究は大変活発になり、コロナ禍にあっても「授業が一番大事」との思いから、全員が一人一授業の公開を行い、実践を積み重ねてきた。実態把握をもとに日々授業改善をしようとする教員の意識改革はめざましい。児童一人一人を大事にし、自己実現させたいとの思いを学校全体でさらに高め、深めていきたい。児童の変容を通して保護者・地域との信頼関係をより一層強くし、学校活性化につなげていく。</p> <hr/> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <div data-bbox="355 1615 1455 1832" style="background-color: #f9f9f9; height: 100px;"></div> <hr/> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <div data-bbox="355 1854 1455 2076" style="background-color: #f9f9f9; height: 100px;"></div>						